

# 中長期インターンシップの主な例

## 1. 学部の実施事例

- ・ 高知大学(人社系・理工系共通 半年間)

出典:産学連携によるインターンシップのあり方に関する調査報告書  
(平成 25 年 3 月 経済産業省)

- ・ 立命館大学(人文系・理工系共通 半年間)

出典:体系的なキャリア教育・職業教育の推進に向けたインターンシップの  
更なる充実に関する調査研究協力者会議(第 2 回) 加藤委員発表資料

## 2. 大学院の実施事例

- ・ 山形大学(理工系 4 ヶ月間)

出典:産学連携による実践型人材育成事業ー長期インターンシップ・プロ  
グラム開発ー各大学のプロジェクト別取組概要(平成 23 年 10 月)

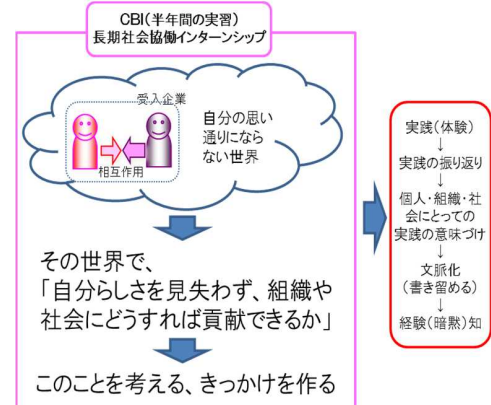
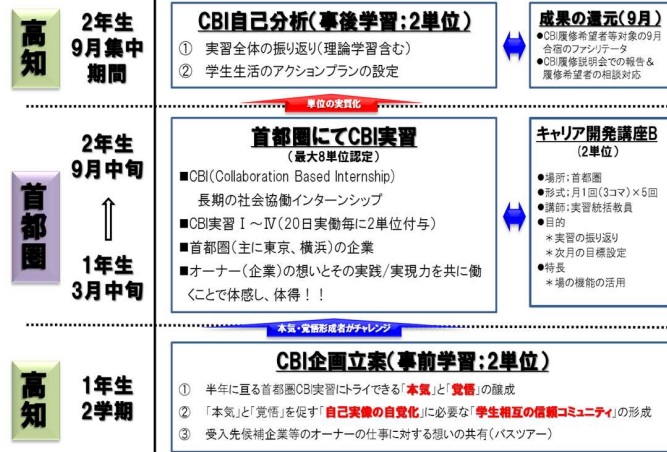
- ・ 信州大学(理工系 2 ヶ月間)

出典:産学連携による実践型人材育成事業ー長期インターンシップ・プロ  
グラム開発ー各大学のプロジェクト別取組概要(平成 23 年 10 月)

## [4] 高知大学:2年次前半に半年間の長期インターンシップを実施

高知大学では、事前事後学習を含む長期インターンシッププログラムCBI (Collaboration Based Internship : 長期社会協働インターンシップ) を開講している (合計で最大14単位)

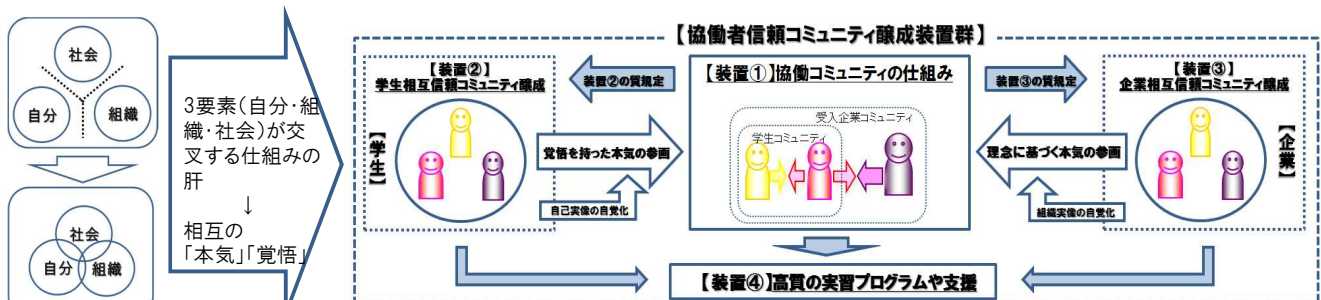
- CBI (Collaboration Based Internship : 長期社会協働インターンシップ) の概要**
    - 2年次前半の東京・横浜での半年間の長期インターンシップ (最大8単位)
    - 1年生2学期の事前学習「CBI企画立案」(2単位)
    - 期間中月1回の講義「キャリア開発講座B」(2単位)
    - 2年生9月に集中講義で事後学習「CBI自己分析」(2単位)
  - 自律や協働の資質醸成に必要な下記の要素を実現する。**
    - 現実感覚を持った大学の学びへの質的転換
    - 信頼は仕事の8割を占める日常業務への創意工夫した取組から得ることの体感
    - PDCAの習慣化
    - 自己と他者(組織)及び社会の統合
- ⇒ 合計で最大14単位



出所：高知大学 人文学部 池田啓実教授 発表資料より

## [4] 高知大学:2年次前半に半年間の長期インターンシップを実施

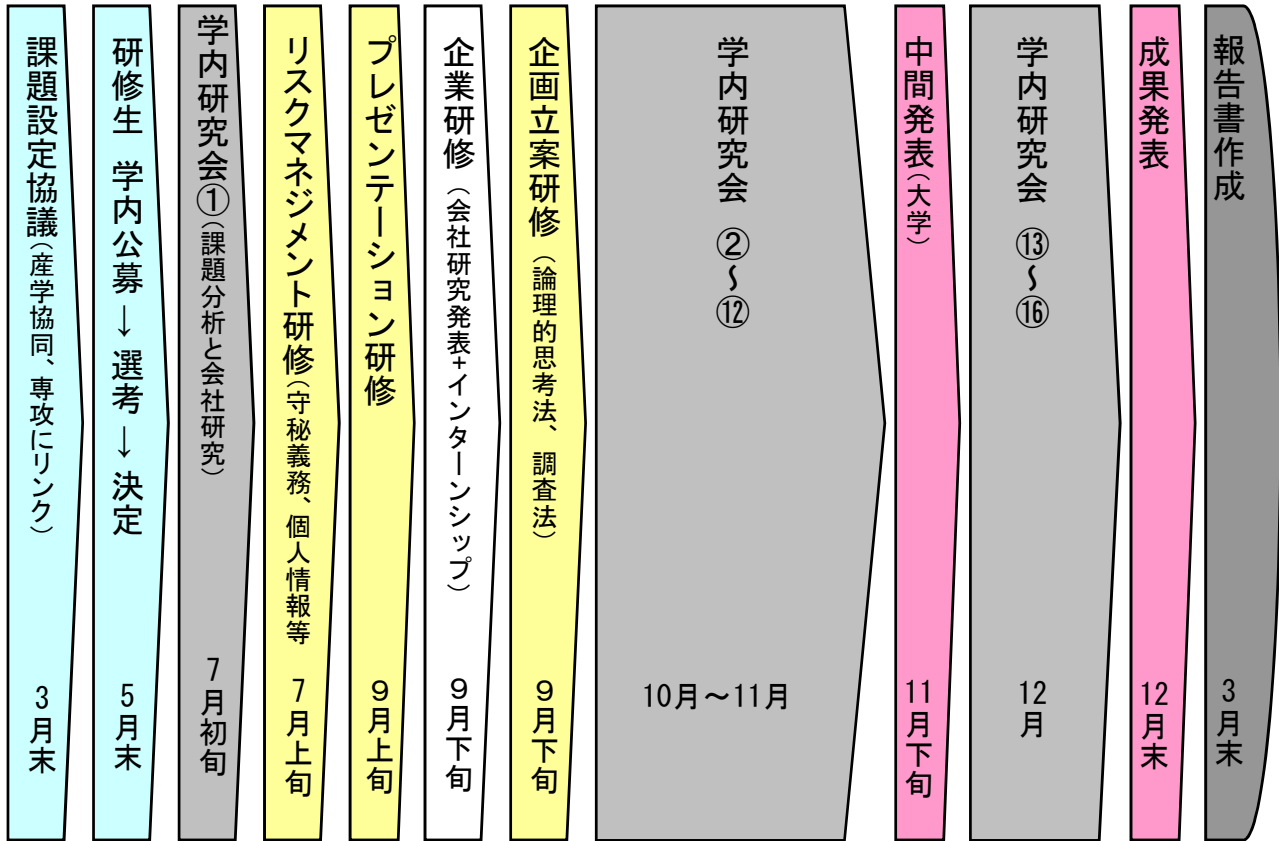
関係者全員の利得が実現するコラボレーションを実現するために必要な制度・仕組みとして「協働者信頼コミュニティ」を醸成する制度・仕組みを具体的に設計



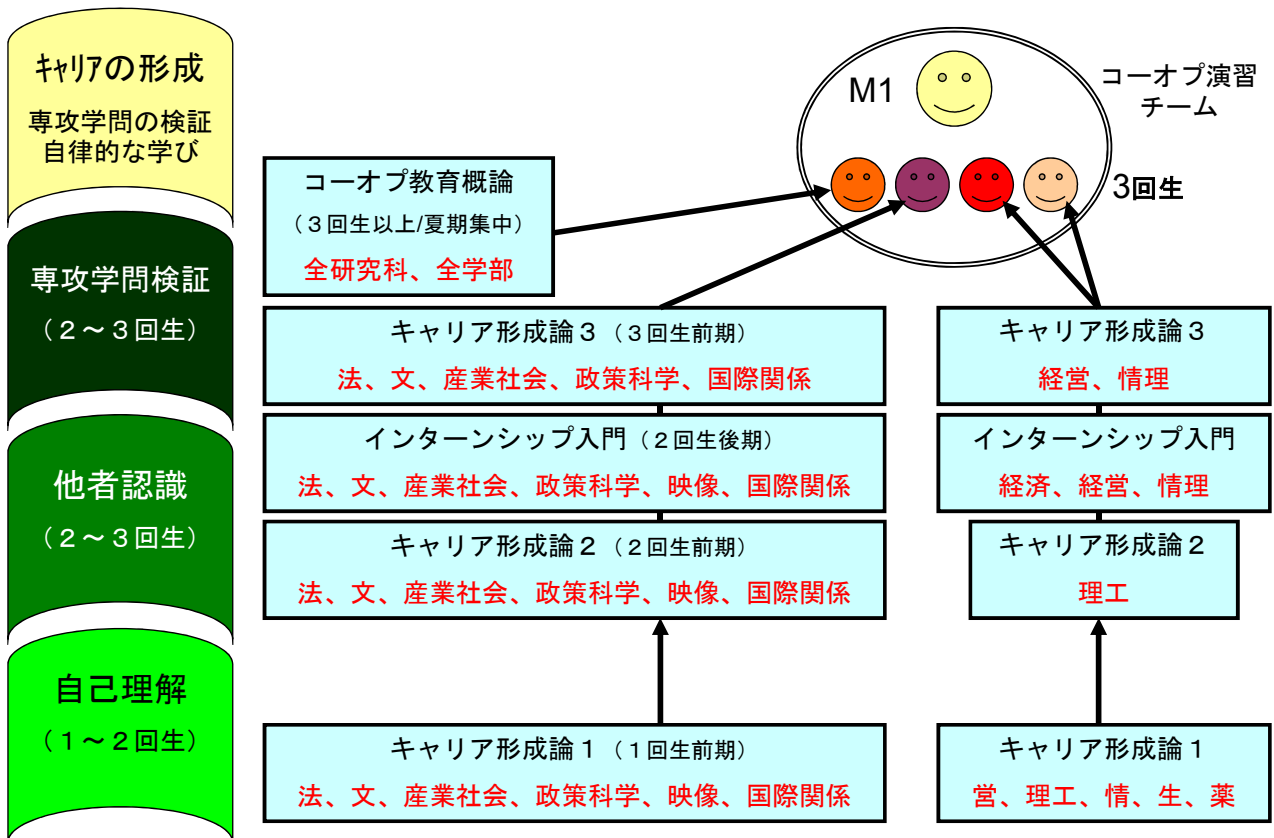
- 装置①：協働コミュニティの仕組み**
  - 実習の場所・期間；首都圏・半年間
  - 受入先の選定；NPO法人ETIC.プログラム登録企業
  - 受入先の受入人数；原則、1名
- 装置②：実習生サイトの本気と覚悟の醸成**
  - 事前学習(1年2学期開講；CBI企画立案)における受講生間の相互信頼コミュニティ醸成
- 装置③：受入先の理念に基づく本気の醸成**
  - 学外協働機関のフィルタリング機能の活用⇒受入先をNPO法人ETIC.プログラム登録企業に限定
- 装置④：高質の実習プログラムや支援**
  - <大学サイド>**
    - ETIC.のコーディネータを伴っての中間と最終時のモニタリングの実施
    - CBI統括教員による月1度(土曜日)首都圏に出向いて行う「キャリア開発講座B(2単位)」による実習支援
    - 事前学習授業へのETIC.コーディネータ招聘(狙い；学生との関係性醸成⇒事前面談の質向上)
  - <NPO法人ETIC.サイド>**
    - 受入先に対する日報活用も含んだ実習プログラム作成の助言
    - 実習期間中における実習生や企業の担当者への定期的な面談の実施
    - ETIC.のインターンシッププログラムに参画しているすべての実習生による合同研修(合宿含む)の実施

# 立命館大学の取組事例

## ●コーオプ演習の全工程 / 2012年度●



## ●カリキュラムにおけるコーオプ演習の位置づけ / 2012●



## 山形大学 取組名称:産学連携による研究開発人材育成プログラム

### 【取組概要】

高い技術力を持つものづくり企業群にとって、製品提案型企業への変貌が生き残りのための重要な課題になっている。このような課題に対応し、企業・学生・教員が現場における技術的・組織的課題に連携して取り組む「高度人材育成プログラム」を実施し、学生自らが課題を発見・解決出来る研究開発中核人材の育成を行う。本取組みでは、特に、共同研究を展開している企業と大学が連携し、派遣前教育・前期派遣・中間指導・後期派遣・派遣後教育を通して、高度な実践型の研究開発人材を育成する。



### 【成果等】

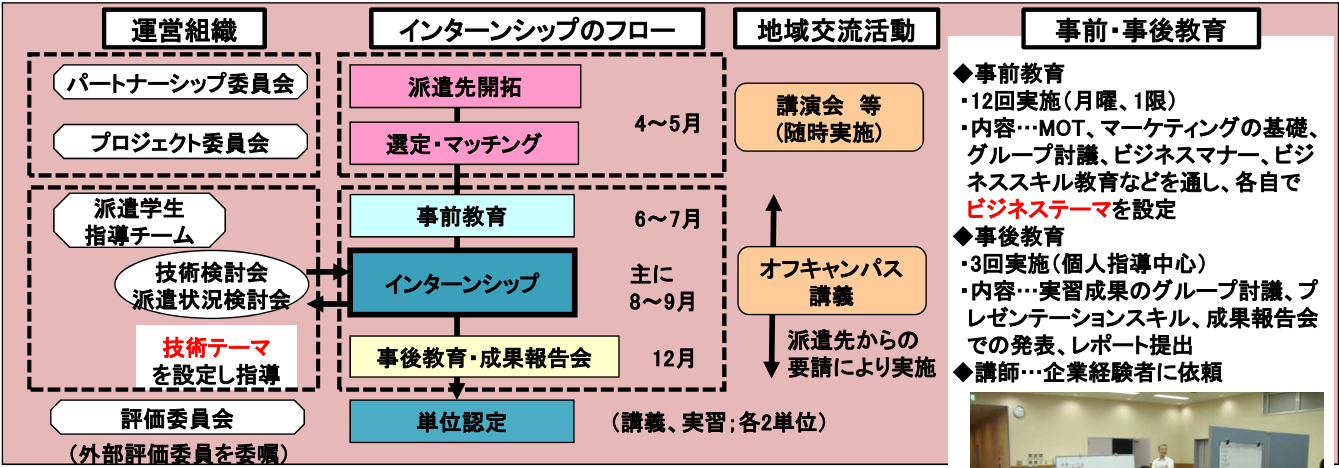
大学では、従来から企業との共同研究や社会連携に力を入れてきたが、学生の実践的教育の場としては、各研究室単位での活動にとどまっていた。本プログラムの実施により、長期間にわたり、技術レベルの高い企業現場での実践的教育の場が確保できた。さらに、参加学生にとっては、企業の人材ニーズを知ることができること、大学と企業との研究開発に対する相違点を認識できるなどの効果があった。また、企業にとっても、学生と長期にわたり研究を遂行することによって、今まで以上に産学間相互の意思疎通が容易となり、共同研究の推進速度も上がり、研究成果が大いに上がった。さらに、本事業を引き継ぐ教育システムを本学に構築することができた。

## 信州大学 取組名称:「創業マインド」の継承による高度人材育成

-The Prefecture is our Campus:地域特性「創業マインド」志向の地元企業との連携による高度人材育成プロジェクト-

### 【取組概要】

長野県には創業精神が今でも強く生きている企業が多い。旺盛な起業マインドは世界トップレベルの「ものづくりマインド」を生みだし、世界オンリーワンの独創的な技術に結実している。このような企業を受入れ先を選び、マインドとスキルを育成するのが、このプロジェクトのねらいである。



### 【成果等】

1. 教育プログラムの開発…事前教育・事後教育カリキュラムなどを開発した。
2. 実績…履修生;71名、修了生;71名、受入機関; 39社(延べ61社)
3. 波及効果
  - (1)大学独自の事業として自立化した。(平成22年度~)
  - (2)修士課程、博士課程のインターンシップ教育(学内4事業)にノウハウを活用した。

